

同窓会報

No. 66

編集発行

三重県立
四日市高等学校
同窓会
四日市市茂福65
TEL (059) 365-3631

印刷

徳東海フォトデザインシステム



恥ずかしくない行動を

同窓会長 熊澤 誠一郎
(四高二十九年度卒)

本年は四日市高校の前身、県立第二中学校が1899年(明治32)に発足以来110年を迎えます。「質実剛健を立校の精神として掲げた田村左衛士初代校長は、自らも生徒と同じ制服、制帽を着用して登校し生徒と接した。」ライオン校長と呼ばれ、「美髯をたくわえたライオンのような風貌の内に威厳も兼ね備えていた。」ライオンだ。ライオンが来たぞ。校庭に群がる生徒の一人が小声で叫ぶ。その声は次から次へと伝わり、それまでのざわめきが次の瞬間ピタリと静まる。するとまもなくステッキを振りふり田村校長が胸を張って正門をくぐって登場する。二、三毎朝の風景である。「厳しさの中にもユーモラスな風景が『四高百年史』に記されています。

110年を経過した今日、同窓会は、会員4万6千人を擁し、健学の精神のもとに脈々と発展、成長しており、学校、同窓会共々、今日の繁栄、充実を喜びたいと思います。

一方、世の中は、昨年もまたまた不正、不祥事の連続でした。牛肉、鶏肉に関する不祥事、うなぎの偽装、米の不正、たけのこの偽装にいたっては何をか言わんやです。日本中の企業が、これだけコンプライアンスの徹底を叫んでいる時に、彼等は何を考え、何を勉強していたのかと驚くばかりでした。

これら不祥事に関係している人た

ちは、きちんとした教育を受けた人

たちでありましょうが、なぜこういったことをするのかと寂しく思います。どうい教育を受けたのか、どんな教育環境であったのかを考えさせられます。私は、結局、倫理の問題ではないかと思えます。日本の精神は「恥の文化」とも言われていますが、今や恥も外聞もないことがあまりに多く、勝つか負けるか、損か得か、だけが判断の拠り所になってしまったような感じがします。「恥の文化」という言葉も死語になったのか、「世間様に恥ずかしい」といった感覚もなくなつてしまったのかと寂しく思います。先進国でこれほど倫理観の軸を失つてしまった国は、見当たらないのでは無いでしょうか。

このような状況になってしまった原因は、いろいろありましようが、高度成長以後の経済至上主義、さらにグローバル・スタンダードと称される風土に巻き込まれた結果だと言えるでしょう。グローバル・スタンダードの基本は市場主義の徹底、つまり力ネ・損得がすべての弱肉強食の世界であり、その行きつくところは、ギスギスした社会になりかねません。社会のトップ層から一般の市民まで常識的な判断ができなくなつており、また社会的な秩序やマナーの荒廃は、大人から子供にまで広がっています。日本人には、これま

での長い歴史の中で培い身につけていたはずの、武士道に代表される日本人固有の伝統的精神「日本のこころ」があったはずなのに、今やその伝統的精神もどこかにいつてしまった感じがします。しかし、昨年から始まった世界的金融恐慌により、全てのものが原点にもどつた今、精神的にもすべて原点にもどし、国も企業も個人も、力ネにかえられぬ大きなものがあることを今一度しっかりと振り返り、これを機に、効率と合理性ばかりを追求することをひと休みし、「日本のこころ」をしつかりとたて直して自信と誇りを取り戻し、かつてのように世界から尊敬される品のある存在になりたいと思えます。

かかると環境下にあつて、人間が行動するときはどういうことを念頭におくべきかという点で心に残つた言葉がありました。それは孟子の「人為さざることあり、しかる後に為すことあり」という言葉です。人間といふものは、まず、これだけははしいけないということがあつて、その後でこいつたことをせよということが出てくる、ということであり、これだけは絶対にしないとい

同窓会員の皆様には、ご健勝にて、ご活躍のことお喜び申し上げます。平素は本校教育活動に暖かいご支援ご協力を賜り、心から感謝しております。

さて、私は昨年4月に三重県教育委員会より四日市高等学校長を命ぜられ着任いたしました。非力ではあります、母校のために全力尽くす所存です。よろしく願います。

平成20年度も残りわずかとなつて参りました。財団法人日本漢字能力検定協会は、毎年年末に一年の世相漢字を決定しています。昨年は「愛」でした。世界金融危機など東海地区の自動車産業も影響を受け、好況から底の見えない不況に大波乱が起りました。

う決心をつけさせることが教育の原点ではないかと思えます。良いことを進める以前に、これだけはしてはいけないということ自身につけさせることが出発点であり、教育にあつてはこれらの気持ち徹底して「恥ずかしいことはしない」ということを思わせることが一番大事なことでないでしょうか。

学校教育では、国では平成18年に約60年ぶりに教育基本法が改正され、これからの教育のあるべき姿と目指す理念が明らかにされました。翌年には「社会総がかりで教育再生(公教育再生の第一歩)」として教育三法の改正が提言されました。教育振興基本計画が策定され、新学習指導要領が実施される予定です。

主なねらいは、学校組織の力と当事者能力向上と教育における責任の明確化、さらに教員に対する社会からの信頼獲得です。

さて、四日市高等学校は、日頃の皆様方の熱いご支援に支えられ、20年の春の大学進学実績では難関国立大学に100名近くが合格し、国立公立大学には231名が合格しています。私立大学へは677名が合格するなど生徒の精進と努力の成果が大きく出ています。

昨春の特徴として、いくつかの誌上で公立高校の大学入試での善戦が昨年に続き特集されています。教員への信頼と当事者能力の向上と学校組織の力など公教育の復活として、四日市高等学校は全国的にも注目されています。(次ページへ)



ご挨拶

学校長 大橋 眞



最近、とみに気になることがある。それは、官公庁、会社、銀行、デパート、交通機関等の窓口業務に携わる人たちの客に対する対応の仕方の味気なさである。つくられたマニュアル通りのセリフを忠実に守っているのみ会話。人に操られて動いているロボットのような。◆ロボットとは、「広辞苑」によれば「複雑巧妙な装置による人工の自動人形。人造人間」「他人に操縦されて動く人。実力がなくて地位にいるだけの人。傀儡」とある。◆幼児期より、TV、マンガ、ゲーム機で育ち、やがてケータイ電話にメール、パソコンと沈黙とバーチャル(幻想)の世界に没入。その後、密室化の車運転。職場にゆけば、終日、パソコンにらめっこ。全く、人と人との対面機会は少なく、当然会話も少ない。子供から大人まで、I・T機器に操られたロボット人間と化している。

◆最近、生徒とのコミュニケーションの出来ない教師失格教師が多いとよく聞く。形式、名ばかりの資格試験。大分県教委にみられたような不適格者合格教員がくりだされている時代である。企業も学校も適格とされた指導者が、それぞれの、組織・社会の管理・運営の責務を担っている筈である。適格者が適格者として、ノルマと責任を果たすべく、管理・運営されれば、ロボット人間は少なくなつてゆく筈だ。どんな精巧なロボットでも持てないものは、「夢をみる心」「あこがれを抱く心」「感謝する心」である。わが母校は創立以来、よりよき指導者たるべき人間を輩出しつづけて110年。21世紀に入りロボット人間だけはつづらないために、一人一人の精神性をたかめる教育を実現してもらいたい。母校の、より一層の発展を祈念する。(鈴木田)

**平成21年度
《母校、創立110周年記念総会》
ご案内**

平成21年度、記念総会を下記の通り開催いたします。会員の皆様、お誘い合わせの上、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

- 日時
平成21年6月6日(土)
13時30分受付 14時00分開会
- 総会議事・議案審議
- 記念講演
〈講師〉川北真嗣(四高56年度卒)
・中日本高速道路K.K.
・企画統括チームリーダー
・元飛驒トンネル工事・工場長
〈演題〉
「日本の道路トンネルと
飛驒トンネルの工事」
- 抽せん会 記念撮影
- 記念祝賀パーティー
総会行事終了後、総合会館西隣り、四日市商工会議所1階ホールにて、祝賀パーティーを開催します(無料)。ぜひ、ご参加を...
- 付記
・会費期限切れの方には、振込用紙を同封いたしました。会費納入にご協力下さい。
・講演につきましても、一般に公開しております。お知り合いで、ご興味のある方には、ご案内下さい。
- 問合先
四日市高校同窓会館
TEL・FAX 059-365-3631

(前ページより)

部活動では陸上部の2名が全国高校総体に出場しました。文化部では放送部がNHK杯全国高校放送コンテスト全国大会に出場しました。バスケットボール部からは国体選手が1名選出されました。その他いろいろな部活動で東海大会、近畿大会などに出場しています。

また、全国高総合文化祭では吟詠剣詩舞部門に参加し、文化連盟賞を受賞しました。さらに、全国12名の出場という狭き門でしたが全日本学生音楽コンクール全国大会ピアノ高校生部門に、さらにエトリンゲン国際ピアノコンクールに1名が出場しました。

また、大四日市まつりでは、パトロン部がパレード、踊りフェスタに参加し、吹奏楽はチャリティコンサートや富田地区の敬老会のアトラクションに出演するなど、地域活動にも貢献しました。

このような活躍や努力に応えるべく、教育環境の整備をはじめ、生徒の成長と夢の実現に何が必要かを十分に検討し、また、キャリア教育を推進し、人間として大切なものを見失うことがないように取り組んでいきたいと考えています。

また、本校通信制課程は昭和23年設置されて以来、60年の歴史を今年度末に閉じます。新しい理念のもとに開校された県立北星高校に本校通信制課程の理念は生かされ、継承発展されます。

今後は、県内で有数の進学実績を誇る学校として、「文武両道」の精神を生かし、四日市高校をさらに進化させ、ますます保護者の皆様や地域の皆様から信頼される四日市高等学校となるよう、教職員一同、がんばって参りたいと考えております。同窓会の皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、母校も平成21年には創立110年を迎えます。本校の輝かしい伝統は、激動の時代を生き抜いてこられた同窓会の皆様によって築きあげられたものだと思っております。また、母校のみならず、今日の日本の繁栄の礎を築いて来られたのは

平成20年度

四日市高校同窓会総会報告

記念講演

打田

十紀夫氏

(四高五十一年度卒業)

演題 「アメリカン・ギター・ソロの魅力」

— ギターの音にロマンを求めて —

議 事

平成20年度総会は、6月15日(日)、四日市市総合会館で開催されました。93人の参加を得て、定刻通り14時に始まりました。

最初に熊澤会長より、110周年は100周年のような大きな区切りではないので、簡素で実質的なものにしていくという基本方針とともに、実行委員会を組織して事業を進めていくことのお話をいただきました。

続いて、本年度本校に赴任された大橋校長より、同窓会の学校への協力に対しての感謝、19年度の卒業生の輝かしい進学実績の報告、四高に向けられた大きな期待に応えるべく学校経営に邁進する旨のご挨拶がありました。

また、総会への出席者の高齢化と固定化、参加者が減少気味であるという問題に対して、鈴木田副会長より、代表である理事が実働していない学年があるので、そういう学年においては理事を出席できる人に代え、当該学年の同窓生に声をかけて参加を増やしていくという形で会を発展させていきたいとお話がありました。

紛れもなく同窓会の皆様のご尽力の賜だと思います。

母校のお近くにお越しの際には、来春完成する新富田駅西口のロータリー、すでに改築済みのクラブ部室棟、テニスコートなど見ていただき、また元気ががんばっている高校生姿を見てください。後輩のがんばりもなかなかすてきなものです。

総会で審議された議案は次の通りです。

第1号議案

平成19年度事業報告

第2号議案

平成19年度収支決算・監査報告

第3号議案

平成20年度事業計画案

第4号議案

平成20年度予算案

第5号議案

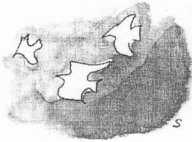
平成20年度役員・常任理事改選について

以上の議案について慎重な審議の結果、全会一致で承認されました。

また議事終了後、西脇副会長を実行委員長として委員会を立ち上げ、簡素ではあるが実質的で意味のある110周年記念事業という方針の下、学校側ともさらに協議しながら事業を推進していくとの報告がありました。



(受付)



(会場風景)



(懇親会)



四高 昭和32年度以降卒業生



四高 昭和25年度～31年度卒業生



富中、四女、北女卒業生

平成20年6月15日
四日市市総合会館
8階 視聴覚室

役員	氏名	卒年度
会長	熊澤 誠一郎	四高29
副会長	鈴木田 俊二	四高28
	西脇 壽郎	四高32
	坂倉 加代子	四高32
	伊藤 勲作	四高35
	中島 泰浩	四高36
	杉本 雅俊	四高42
	村井 司	教頭
	岡田 卓也	富中40
	小菅 弘正	富中42
	吉田 豊	四女39
	江川 澄子	北女19
	大橋 眞	校長
	小林 典子	四高51
	河西 善哉	四高48
	伊藤 成利	四高31
	高羅 英彦	四高33
	大森 智之	四高50
	奈須 庄平	四高37
	杉野 慎二	四高49

常任理事

常任理事	氏名	卒年度
	山本 将子	四高25
	服部 幸男	四高27
	吉田 又康	四高30
	鈴木 清司	四高31
	小津 博嗣	四高33
	中村 祐子	四高34
	上野 公雄	四高35
	中川 宏	四高37
	長谷川 正統	四高38
	山下 久三造	四高39
	青山 晶	四高45
	秦 欣二	四高48
	森 公平	四高51
	黒木 誠	四高55
	名越 一大	通信



四日市高校同窓会 平成19年度収支決算書

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

【収入の部】		単位:円		
項目	細目	摘要	決算額	予算額
同窓会収入			6,706,750	6,116,000
	入会金	全日制1,800×1070人 通信制1,200×68人	1,926,000	1,944,000
	同窓会費	終身(20000) 218 4360000 10年(10000) 2 20000 5年(5000) 2 10000 3年(3000) 3 9000 2年(2000) 5 10000 1年(1000) 353 353000 同窓会費計 4762000 振込料 -62850	4,699,150	4,100,000
雑収入	利子、その他		54,867	5,951
繰越金			798,049	798,049
合計			7,559,666	6,920,000

【支出の部】		単位:円		
項目	細目	摘要	決算額	予算額
運営費	給料、手当		1,165,268	1,610,000
	印刷、事務用品等		1,030,000	1,100,000
	電話、郵便料		38,828	430,000
			96,440	80,000
会議費	総務会	会場費、懇親会費、案内状	198,138	370,000
	理事会	会場費、会議費、案内状	142,820	250,000
	常任理事会	会議費	47,191	100,000
	会報	会報印刷及び発送費	8,127	20,000
事業費	四高会拠出金	会報印刷及び発送費	637,319	950,000
予備費	積立金	積立金	1,000,000	1,000,000
			2,950,000	2,990,000
			2,950,000	2,950,000
			0	40,000
合計			5,950,725	6,920,000

特別会計積立金(百五銀行富田駅前支店定期預金)

前年度末	14,264,791
今年度積立金	2,950,000
利子	38,437
今年度末	17,253,228

百五銀行富田駅前支店普通預金

平成19年度収入	7,559,666
平成19年度支出	5,950,725
次年度繰越金	1,608,941

財団法人四高会 平成19年度収支決算書

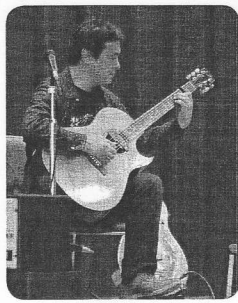
(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

【収入の部】		単位:円		
勘定科目	細目	摘要	決算額	予算額
寄付金収入		同窓会より	1,000,000	1,000,000
雑収入		受取利息	3,585	5,409
		会館使用料	127,500	115,000
前期繰越金			1,019,591	1,019,591
合計			2,150,676	2,140,000

【支出の部】		単位:円		
勘定科目	細目	摘要	決算額	予算額
管理費			1,184,819	1,670,000
	事務費		437,850	550,000
	会館修理費		244,247	500,000
	清掃費	環境整備等	96,334	100,000
	保険費	火災保険料	18,570	20,000
	光熱給水費	電気、水道、ガス代	387,818	500,000
事業費		会議、講演	267,865	250,000
	法人住民税	県税・市税	157,300	160,000
予備費			0	60,000
合計			1,609,984	2,140,000

(次期繰越金) 百五銀行富田駅前支店普通預金 540,692円

19年度収入	2,150,676
19年度支出	1,609,984
差引残高	540,692



打田十紀夫氏

心に響いたギターの音色

本校の喝采を浴びたのでした。(その雄姿をご覧になりたい方は <http://www.tab-guitar-school.jp> をご参照ください) そんなお話の後、東京工業大学理学部を中退されギターの道に進まれたこと、そして、曲を交えながら氏のギターの世界を話していただきました。

「私はアコースティックギターに出会ってから、トラディショナルなものにより魅力を感じた。伝統的な音楽には、名もない多くの人々が過去から積み上げてきた喜びと悲しみ、の思いが込められているから心に響くのだろうか。」との言葉どおり、ギターの音色は、何か懐かしい思いを私たちに感じさせてくださいます。素晴らしい演奏をありがとうございました。(河西)

平成20年度会費納入者

(敬称略)

○終身会費(2万円)
樋口貴明、宇佐美悠、杉浦貴、倉田悠希、大道貴仁、大井貴裕、額綱彰、大津京子、島田昂紀、池田圭吾、谷口駿平、藤村咲紀子、迫間充宏、東志穂、渡部厚志、太田一志、河西綾子、河西善哉、北平茉莉子、鈴木明日佳、小川真弥、小橋真理、伊藤大樹、伊藤有希、田中翔太、若井麻美、出口莉那、佐藤文香、川合康彦、福田尚也、福岡敬介、中村文香、森川紗貴、植松慶太、今井亮太、中原穂、岡田直弘、岡咲由美、伊米島まどか、安田直弘、岡咲由美、伊藤麻由、川戸亜沙、藤田涼子、秋元隆宏、市川郁弥、竹中航、河本真以子、河本祐輔、三宅梨穂、辻良樹、太田尚吾、北川大智、小松直矢、太田美波、中尾彩香、高木優香、伊藤俊太郎、伊藤匠、澤田康太、伊藤涼、三嶋大介、川合祥暢、岩田賢治、水谷明日美、伊藤

藤彦、橋本直也、松井健太郎、斉木健司、吉川なつこ、橋本奈奈子、中島英之、尾西一隆、門脇正英、河内駿迪、水谷純也、佐野由衣帆、前田幸陽、飯田佳美、中村玲奈、福村沙紀、河口惇史、砂原愛紀英、日暮喜陽香、居石麻衣佳、中川伸吾、梅田康希、山口照弘、鈴木資子、西脇友美、山路文香、阪井温香、紀平大貴、服部早慧子、櫻井那央、佐藤佳世、平野智士、片山祥一、為定悠介、大西藍、濱香緒里、稲塚智行、太田修平、水谷広樹、杉野幸也、石原亮太、芳村大輝、高井佑輔、坂倉功達、山本萌子、植田健太、大倉理恵子、高橋英司、高橋奈々江、高山博行、西脇安耶、蛭川翔太、水谷日香梨、山中克明、浅田泉、岡本典也、加藤緑、金田愛子、河野景美、菊川紗希、後藤有紀、佐藤里絵、須原妃奈子、瀬古大也、瀧本悠、田中那々帆、常深惠梨香、東方由香里、丹羽輝、服部佳大、美濃田結香、森本実貴、趙詩瑤、笠井千央、清水亮一、伊藤真美子、岸李花子、小泉綾香、佐藤里沙、潮崎恵里奈、清水

千賀、尺長麗、竹村真菜、山下直子、小島侑也、伊藤太一、今藤智基、岡本広太郎、古森裕也、近藤大、堺将悟、桜井孝親、庄瀬智大、館知里、筒井愛実、西田卓真、早川絵梨、水谷健佑、三好史紀、安福浩希、渡辺了太、秋元一志、浅井悠貴、伊藤誠嗣、片山友貴、杉崎祐真、千種法人、中井裕友香、須藤梨香、丹羽由貴枝、松田友香里、水谷駿介、水谷太樹、山田周平、山本智紀、横井亮太、渡辺綾野、市川裕紀、伊藤大祐、伊藤貴之、伊藤直人、上林麻衣、梅原周、葛山由樹、金丸美佐保、小林明日香、佐藤恒亮、佐藤匡憲、杉浦光、鈴木健太、田端恭平、中村佑太郎、新實由貴、新美有希、橋本恵里、松森文香、伊藤桂子、井上侑紀、河辺文人、久志本尚子、近藤俊介、坂倉将史、安達真穂、中澤利之、西尾幸次郎、廣瀬由佳、藤村美穂、松元和人、村坂和哉、服部愛、三橋貴仁、安藤卓康、伊藤潤、今村友穂、柏木太郎、片岡将宏、工藤由子、倉田桃子、後藤沙絵、佐藤優麻、田中千晴、丹羽香央里、丹羽雅也、羽場知世、浜名芳輝、比嘉義秀、藤井みなみ、村田悠介、村野亜子、森脇彩、山本佳、山本真由、横田文彦、由見諒、位田武嗣、奥寄雄也、高松弦紀、多田光志、田中淳大、田中友季子、刀根実樹、名和俊平、西田祐美、藤松宏章、堀貴道、松岡亮太、山本佳奈、分部雄太、早川勝彦、平田昭義、片岡宏和、中村文子、玉村紳、伊藤八峯、清水むつみ、松瀬瑠美子、奈須庄平、花木則彰、徳永恭、加田陽子、藤谷克彦、山本幸子、松村靖、椎名博之、岩田和弘、岩田貴文、山口道子、安垣澄子、伊藤登美、柴田浩樹

会費納入のお願い
○納入金額
終身会費 2万円
毎年納入の場合
年会費 千円
○納入方法
①郵便振替 口座番号
0082011816367
三重県立四日市高校同窓会
※専用の振込用紙がありますので
ご連絡下されば送付いたします。
②現金書留
会館迄送金下さい
③お問い合わせは
四日市高校同窓会館まで
千五〇一八〇二七
四日市市茂福六五

お悼み
伊藤 治郎 先生
(當中四十二回卒)
平成20年3月1日逝去



先生は、数学の教諭として昭和24年度より昭和44年度まで母校にて教べんとられた。明快な指導法に、多くの生徒は先生に親しみを持った。昭和63年度より平成元年度、母校の校長として教職の道を終えられた。

相山 満 先生
(當中四十二回卒)
平成20年9月1日逝去



先生は、医院経営、多忙の中母校創立80周年記念映画、「風雪八十年」を製作され、創立100周年記念講演にて「百年の日に四日市の歴史をふりかえろう」と題して、熱弁をふるわれた。



ささやかな国際交流

門脇 一弥

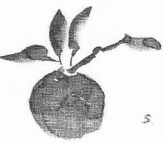
(富中三十五回卒)

この処国際親善の一環として、我が政府も観光省を発足させるやの状況になってきているようです。その為には先ず国際交流という外国人との相互理解が必要であり、又其の後の文通なりの交流が続くかどうかは、夫々個人の努力に依ると思いますが、幸いにも私には、もう10年間も文通の続いているスイス人一家との交流があるので、ご紹介しましょう。

それは、あのミレニアム、丁度西暦2000年の6月、私の80才と金婚のお祝いを兼ねて、夫婦で10日間の欧州4ヶ国ツアーに参加してきました。総てが珍しく、歴史と先進国の整備された姿に圧倒され、全く参ってしまいました。その旅の4日目がスイスの最高峰ユングフラウ登頂でした。少し高山病気味となりましたが、下山の途中駅のクライネシャイデックで下車し、雪の頂上や隣のメンヒやアイガーの北壁等を自慢の一眼レフで撮りまくっていた時、ふと背後に視線を感じたのです。外人の少年が繁々と私のカメラを見つめていました。そこで英語で話しかけると9才の子でした。がその後は、一行5人の中の背の高いご婦人の方が、興味を示し話し掛けてきました。英語とドイツ語のチャンポンで、私はヤーパンからツアーでやって来たドクター、婦人はスイス人のドイツ語圏に住み街で英語教師をしている等、色々20分ばかり話している内、彼等の東行き電車の予約時間が来て、それではと、お山を背に一写、後でお送りするようアドレスを書いてもらいました。グッドバイとアウフヴィーダーゼーエンときょうならの大声で別れたことでした。

その後10年たった今も交流が続いているのです。私は日本を識ってもらいたくて、風景入りのカレンダーや日本昔話の英訳本、森永のミルクキャラメル追送ったりしました。向うからはスイスのチョコレート、風景カレンダー、スイスタオル等送られて来て、いつも英文の便りが添えてあります。夫はダクラス社の技師、女のお子二人、姉はバレエダンサー志望、妹は建築家志願の共に大学生でした。もう昨年には卒業している筈です。それにしてはスイスの夏と冬には長いバカンスがあるので、今年姉のミシェルさんは、冬の間インドネシアでアルバイト。ご両親はそれに便乗して在印中とか。妹のエメリさんは昨年フランスのロアル川沿いのロマンチック街道で古城を訪ね、卒業論文が出来たようです。

いつの間にかこんな情報が入って来る交流、本当に嬉しいですね。毎年のクリスマスは特に楽しみにして便りを待っています。もう10年もあります。でも私は富中昭和13年卒の89才になるのです。もう先余り永くないですね。この10年の温かいメールのやり取りも、そろそろ終わりに近づいて来ているかと思うと、寂しさを覚えます。有難うスイスのゴティヤさん一家。あの美しいスイスの風景や人々の暖かさを忘れませぬ。皆様も機会があれば長く交流して下さい。



人物往来



年を重ねて

田中 一子

(四女四十五回卒)

この世に生を受けて、早いもので78年の月日がたちました。振り返りますと、大東亜戦争、学徒動員、子育て、伊勢湾台風と、それぞれ大変な苦労を重ね、どれ程たくさんの方々にお世話をおかけ致しましたことか、今となっては、すべてが感謝の気持ちでいっぱい、懐かしい思い出となりま



幸せを思う

若井 志げ

(四女四十二回卒)

あこがれの女学生になつて新しい制服姿で校門をくぐったあの日から、幾年かあつという間に過ぎ去った思い出ですが、心の中に刻まれたこの感動を残したまま、久しく続いた私達学年の同窓会も2008年に終了致しました。その間多くの友を失っていますが、最後まで楽しく出席できた幸せを皆で喜びました。また変わった形で集まることもあるでしょう。

「私達は青春がなかったね」とよく話題になりました。確かに私も共通の念をもつております。でも当時、戦後で住む家まで失った両親が、私達一家族をかかえて再建に向けて歩いた苦労を想像すると、いささか悔しいかと思ふことも考えます。そのような環境のもととはいえ、私もそれなりの幸せをみつめて家庭をもち、平和の中に明日への希望をもつて子供を育てあげ、独立させ、それぞれの家族の幸せを願つて、ここまでの

に驚きました。私も何か見習わねばと、以前からやっております俳句、水中エアロピクス、コーラス等、時間の許す限り自分なりに続けております。道端に咲く一輪の花を見ましても、又雲の動きにも心を動かされ、今迄ただ何げなく眺めていた風景も車窓から見る景色の移り変わりもすべて俳句になり、メロをとりようになり、私なりの発見です。体力的には若い方には敵いませんが、水中エアロピクスは、浮力を利用してピチピチの若い先生の号令と音楽に合わせて身体全体を動かし、若い頃に出来なかつたことを、この年に



吟との歩み

笠井 きよ

(北女十九回卒)

今から丁度30年前昭和53年1月に縁あって(社)日本吟学院岳風会(東京に本部)の津岳風会へ入門しました。北は北海道南は沖縄まで全国に会員がいます。私達女学生の時、運よく卒業はさせられましたが、戦争に始まり終戦に至るまで殆ど勉強らしい事はなく、中味は何もなく唯学校の門をくぐったという事でした。何か身につくものはないかなあ……と思つていたとき知人に吟吟を勧められました。最初は何がなんだかさっぱりわかりませんでした。詩吟とは漢文を正しく詠むことから始まり、内容をよく理解することが大切で、

詩文を何度も正しく読む。吟吟の吟とは声を正しく発声して吟ず(又うめく、うなる)の意味があり、詩歌を作つたり、又吟ずることあり、それには腹式呼吸が大切です。言葉の間合いを美しい響き名を一つ一つ切つて発音することが出来ず、種類も少なく表現しや





甲子園でのご恩返し

成瀬 勝巳
(四高三十年度卒)

昭和29年夏の三岐大会で宿敵岐阜高に敗れ甲子園の夢を絶たれた。守備重視からくる打力不足がその原因であった。翌年当時の覚井校長の「打たねば勝てぬ」の言葉を掲げ、攻守にバランスのとれたチームが編成された。早速その成果は現われ、5月の中部地区高校野球大会で三重県はじまって以来の優勝を成しとげた。

おかげで全国レベルの学校との練習試合も多くなり、中でも対中京商業戦は完敗したものの試合後中商滝監督からご指導いただいた訓話はないが脳裏に残っている。「今日の試合は情けない。四日市高の力はこんなものではない。中部地区大会での優勝がそれを物語っております。新宮の前岡、小倉の畑、米子東の義原

る機動力封じのため、重ねた敷布団に向ってボールを投げスローイングの練習をしたことを思い出す。試合は6対1で完勝し、翌日の決勝戦でも坂出商を4対1で破り初出場初優勝を飾った。

平成12年に四日市高校野球部創部100周年の記念式典に滝先生をご招待しスピーチをお願いしたところ、当時は回顧し「準決勝でまさか四日市に負けるとは思っていませんでした。翌日の決勝戦のことばかり考えていた。不覚でした」と会場を笑わせた。矢張りあの一戦をしつかり受け止めて下さっていたのだと確信し、春に滝先生から受けた叱咤激励に対するご恩返しが出来たと熱いものを感じた。

夏の甲子園大会の優勝は池内先生水谷監督はじめお世話になった方々に対するご恩の結晶と思ひ、大切に抱き続けてまいりたいと思います。



校歌には美しい日本語が いっぱいみつまっている

山下 卓巳
(四高二十五年度卒)

「星霜茲に四十年 白亜の壁は寂びたれど 棕櫚の葉風の囁きも 古き歴史の香に匂ふ」
これは旧制富田中学校歌の一節である。あれから70年、今年は一〇〇周年を迎えるという。私が入学したのは昭和20年、終戦の年の4月である。通学は近鉄富田駅で下車、降客は大半が富中生である。出札から出ると最上級生の号令で整列し歩調を合わせて校門を過ぎるとすぐ右手に奉安殿(神事などで使う道具や宝物を安置する場所)があり、奉安殿に向かつて「頭右!!」を行うのが儀礼となっていた。

このころすでに大東亜戦争の帰趨ははっきりしていたにもかかわらず戦争に負けるなどとは思っていません。ただだけに、全校生徒が校庭で玉音放送を聞いたときは全身の力が抜けていったのをはつきり覚えてい

まさに文武両道の教えである。私は甲子園の高校野球で勝利校の榮譽を称えての校歌斉唱を聞くのが好きだ。そこには空があり、雲があり、山があり、森があり、川があり、風がある。その何れもが名曲ばかりだ。

童謡唱歌に目が潤むように小中、高、大学の校歌にはそれぞれに日本独特の情緒と素晴らしい日本語がいっぱいみつまっている。そして校歌は愛校心にも繋がりが、ひいては家族愛、愛国心にも繋がっていくはずである。
律儀で几帳面で義理人情に厚い伝統ある国民性はどこへ行つたのか、昨今は日本人がどうやら壊れてきたみたいだ。今年喜寿を迎え、人生の残り時間が少なくなつたなあと実感する昨今、これからの日本がどのような国になるのか気がかりではある。



四高生を迎える鯨駅

日比 義三
(四高四十五年度卒)

私が、四日市高校に通っている昭和45年6月に三岐鉄道が、近鉄富田駅に直接乗り入れし、員弁方面の通学が便利になったと同級生が喜んでいたので覚えています。そんな思い出を持つ私が、三岐・近鉄富田駅西口駅舎の改築に関わることになるとは当時は思ってもいませんでした。

(駅舎のみ昨年11月29日供用開始・駅前ロータリーと駐輪場は本年4月完成予定)
この富田地区においては、国重要無形民俗文化財に指定されている「鯨船神事」が、毎年行われています。伊勢湾最奥部に位置する四日市には、捕鯨の記録が残っていないにもかかわらず、

四高同窓会員の皆さんも新しい鯨駅から懐かしい富中・四女・北女・四高時代に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

鉄道は駅が、利用していた当時は思い出させる何がしかの魅力を秘めているべきものだと考えています。今回駅舎が新しくなったのを契機に、次代を担う若者たち(四高生)の大きな成長を期待すると共に、会員の皆さん自身の30年40年先の思い出づくりをスタートさせて頂きたいと思ひます。
この駅舎が地域の方々や駅利用者の人々の話題づくりとなり、また地域活性化に向けて「ひと」と「まち」を繋ぐ役割を果たすことが出来れば良いと考えています。



金持ちを作らない社会

小黒 正博
(四高五十一年度卒)

今は、百年に一度の不況だとか。日本の歴史が2000年とすれば、20回目の大不況ということですね。それでも日本人は滅亡することなく生き抜いてきていますから、そう心配することも無いのでは？
本来経済というのは物々交換がベースになっています。相手にとって価値の高い物を提供し、自分にとって価値の高い物と交換する。貨幣はその仲立ちをするだけの物です。

昨秋、亀山市に新設されたデイサービスセンターに木質バイオマスを利用した設備を設置させて頂きました。バイオマスの設備と言っても、薪を燃料にしたボイラーと木屑を固めたペレットを燃料としたス

トープ程度のものですが。職員さんが出勤するとまず最初にボイラーに火を入れます。新聞紙から小枝、薪と火が移っていきます。約一時間半で大浴場にお湯が張られます。薪で沸かしたお湯は優しいとか。薪は、間伐をしている森林NPOから、杭として出荷した残りの材を切り出して運搬する追加コストの負担なので、ネットで流通する価格の半値以下で入手できます。微々たる物ですが、彼らの不安定な活動の基盤作りにはなっています。

薪だけの焼却灰は土質改良材となるので、近隣の農家に無償で提供します。給湯を終えたボイラー内の熱工ネルギーは、脱衣場・トイレ・静養室など、肌をさらす部屋の壁暖房に利用します。温風を吹き出すエアコンと違い、気化熱を奪われて寒かったり、肌を乾燥させることがありません。レクレーションルームには木質ペレット燃料のストーブが南北に2台。木が燃える赤い炎の揺らぎの癒し効果と輻射熱による優しい暖房を提供しています。もちろんこの焼却灰も畑に利用されています。山に捨てられている間伐材を利用して、化石燃料の使用量を減らし、焼却灰と余ったエネルギーを高度に利用することで、廃棄物を減らす。これが、成長を必要としない、経済社会へのヒントではないでしょうか？金持ちを作らなければ、極端な貧乏も生まれません。右肩上がりでなくても、サステイナブル(持続可能)な社会はこんなところから生まれるのではないのでしょうか？



理想随リ (第12回)



富田駅から見る母校のグラウンド

四日市市消防本部 今尾 清 (四高五十七年度卒)

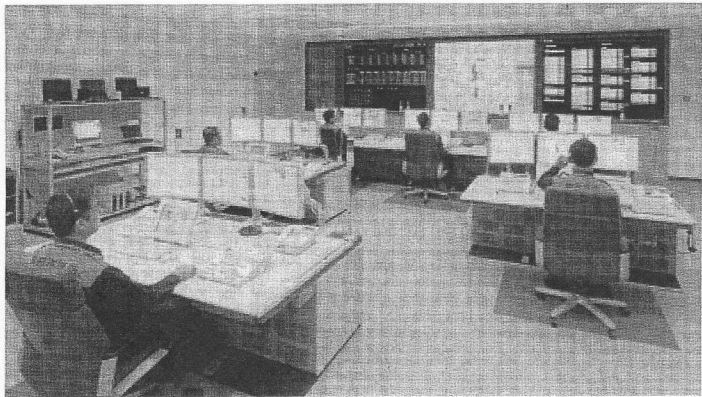
現在、私は四日市市消防本部に勤務し、市民からの119番通報を受け付ける消防指令センターで仕事をしています。この消防指令センターは全国でもまだあまり例がなく、これまで四日市市と隣の桑名市が個別に設置、運用してきた指令装置を昨年4月から両市が共同してひとつの指令装置に統合し、運用を開始した高機能型の消防指令センターです。現在では四日市市内からの通報は桑名市の消防本部内にあるこの消防指令センターに集約され、北は桑名市長島町から南は四日市市楠町まで人口約55万人の暮らしの安全を守っています。

かりでしたが、同じようにクラブ活動をしていた先生方のおかげと感謝いたしております。今、通勤には毎朝、急行電車に乗り近鉄富田駅で普通電車に乗り換え富田駅で普通電車に乗り換えるまでの数分間、駅のホームから母校をながめると、昔と変わらないグラウンドが目に入ります。朝日を浴びたグラウンドを見ながら、当時の自分たちがそのグラウンドをがむしやらに走っていたことをとて懐かしく思い、富田駅のホームに立っている毎日です。

高校在学中の私は勉強もろくにせずクラブ活動に熱中し、毎日、日が暮れるまでグラウンドを走っていたことを思い出します。クラブ活動は陸上部の長距離に所属し、グラウンド内にはプラスチック製の音楽が聞こえ、野球部、ソフト部、サッカー部が所狭しと部活する中を縫うように走ったものでした。当時の陸上部は指導者がおらず、短距離、跳躍、長距離と各部長が気ままに練習メニューを組むような粗末なものでした。県大会などで活躍するような選手はおらず、和気藹々と練習していたことを思い出します。今ではこのクラブ活動を通して知り合うことができた仲間が卒業後の大切な宝物となっています。今、彼らはさまざまな分野の第一線で活躍していますが高校を卒業して25年が経ち、今では休みになると高校時代に帰り、友人たちと語り合えることが何よりも楽しみみです。勉学での思い出は、私は毎日が補習の連続で辛い思い出

しかし、今考えると、文武両道・質実剛健の校風を重んじた学校であったからこそ、多感な高校時代に勉強だけに時間を費やすことなく好きなクラブ活動に熱中することができ、また同じようにクラブ活動をやってきた仲間がいてくれたことが大学進学までの道を作った礎となっています。大学卒業後は陸上競技に関係する仕事につくことはできませんでしたが、今まで培ってきた自分の知識と体力を消防士として市民の安全、安心を守る仕事に生かすことができ毎日、充実した日々を送っております。これも一重に落ちこぼれの私を見捨てることなく熱心に指導し

ていただいた先生方のおかげと感謝いたしております。今、通勤には毎朝、急行電車に乗り近鉄富田駅で普通電車に乗り換え富田駅で普通電車に乗り換えるまでの数分間、駅のホームから母校をながめると、昔と変わらないグラウンドが目に入ります。朝日を浴びたグラウンドを見ながら、当時の自分たちがそのグラウンドをがむしやらに走っていたことをとて懐かしく思い、富田駅のホームに立っている毎日です。



四日市消防指令センター内部風景



地元OB

荒木 元浩 (四高五十三年度卒)

とうとう私にも四高同窓会報に何か書いてほしいという依頼がきた。「とうとう」とは、別に待ち望んでいたわけではないので「たまたま」の方が適切である。「特に書くことがない」と言いつつも引き受けてしまった。思えば私も家族(妻と子供2人)4人とも四高の卒業生である。私と妻は同い年で、子供2人は3つ違いで最近四高を卒業した。純度100%四高卒業生である。冗談だがこの「人物往来」も家族4人で回

いであったように思う。共通一次元の世代で、確かに受験で煽られもしたが、今の比ではないと思う。今は情報があり過ぎる。消化しきれないし、じっくりと考えている暇がない。最近は随分と高校生を取り巻く環境も変わって、高校教員をやりながら「高校生」って大変だと思ってしまう。書をやっているの、90周年や100周年では同窓作家展の一員として参加させていただいた。平成21年度には創立110周年を迎えるという。地元OBとして密かにこの歴史を祝いたい。

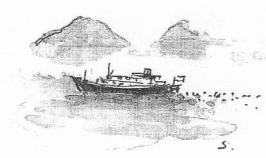


海につづく

棚瀬 浩志 (四高平成元年度卒)

私は昨年の10月から12月まで、ひよんなことから再び学生になっていた。海上自衛隊では毎年、技術者の中途採用がある。(なぜか)その採用試験に合格したのだが、中途採用であっても自衛隊の入隊初期には必ず何らかの合宿教育があり、私も広島県江田島市にある、海上自衛隊候補生学校に入校したのである。江田島にある海上自衛隊の教育機関は、明治9年に開設された「海軍兵学校」を前身とした伝統のある学校である。私の場合は、入校から修業まで約2ヶ月半の短い教育期間ではあったが、そこで受けた教育は、私の人生で何にも換え難い経験と思いを残してくれた。朝の総員起こし(秋・冬は6時半)から、夜10時の消灯まで、課業

は座学教務と体育訓練等、多種のバリエーションに富む。校内は広く、入浴も大急ぎで行うような、時間の余裕が全く無い目が回るような毎日であったが、今にして思えば、私がかつて娯楽で吸って来た諸々の塵芥(あくた)を洗い流す良い機会であったと思う。前職を辞するまで色々迷ったが、エイヤツ、と入校を決めて良かった。中年間際の腹の出たオッサンが、あたかも中学生のように野山や海辺で飛んだり走ったりしているうちに随分とスリムになれたのだから。美しい瀬戸内の島の風景と、伝統が宿るレンガ造り校舎。数々の(特殊な)規律に従って、沢山の(個性溢れる)教官や同期の学生と過ごした日々は、(色々な意味で)浮世離れた環境ではあったが、ひよんな



同窓生交歓



富中35回卒 H20.11.14 (四日市都ホテル)



北海道富中四高会 H20.5.17 (札幌)



四高51年度卒 H20.8.16 (四日市都ホテル)



第10回四高桜菜会 H20.6.1 (四日市都ホテル)



富中40回 H20.11.4 (寿美屋)



在京富中会40回卒 H20.6.2 (KKR ホテル東京)



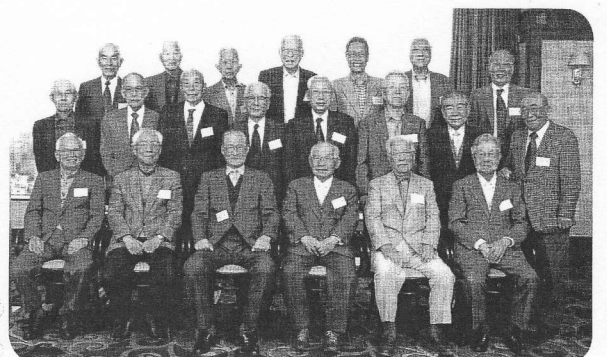
四女42回卒 H20.4.27 (四日市都ホテル)



白壁会 富中42回卒 H20.10.20 (四日市都ホテル)



通信制課程 H20.6.1 (ひるがの高原 牧歌の里)



富中41回卒 H20.4.5 (四日市都ホテル)



ありがとう、 さようなら通信制課程

名越 一大
(通信制課程)

戦後、激動する社会の中、働きながら学ぶ人々の為に、昭和23年通信制課程は産声を上げました。25年に初めての単位修了生が巣立って以来60年間約3700名余りの方々が、通信制課程を卒業されましたが、本年3月末にて通信制課程は幕を下ろす事になります。社会情勢が大きく変動する教育改革の大波を受け、四日市北高校と統合となり、新しく北星高校として船出しました。

勉学に友情に励みだ学び舎、本日に沢山の思い出があります。入学式で初めて出会ったクラスメイトと共に過ごした4年間の出来事は、私にとっても大切な思い出ばかりです。運動会での綱引き、最後まで諦めず頑張り抜き、延長戦の末勝利した

通信制課程に4年間で在学しました。楽しい事ばかりでも有りませんでした。志半ばで私の子供のようなクラスメイトが亡くなりました。顔と名前を覚えきっていない時期での悲しい出来事は、忘れたくても忘れられません。

4月からは学び舎に、訪れる職員室や教室は有りませんが、18年に校門横に学校関係者の方々の御協力を頂き記念碑を建立しました。何時でも訪れる事が出来る場所です。卒業生の皆さん、一度訪れて下さい。

寂しくて、とても悲しい事ですが通信制課程での思い出は胸の中に閉じ込め、残された人生を過ごしていきます。

最後になりましたが、四日市高校の前途更なる栄光と躍進を心から念じております。

E-mail: taku877@ppn.ne.jp

高校生活を振り返って

3年1組 柴田 麻由

私は四日市高校で本当に有意義で楽しい三年間を過ごすことができました。毎日の授業・部活・クラス活動を通して得たものはたくさんあります。日々の授業を真剣に受け、もう一度自分で考える。わからなければ友人に助けを求め、私も助けたり、ともに教え合う。自分たちでわからないことは先生方に質問をすること。そうして理解を深めるうちに、勉学はただ教科書と向かい合う苦行ではなく、人間同士のつながりや成長していく温かなものであることを実感しました。先生方の妥協のない熱心な指導、暗くなるまで教えあつ

た末の達成感、大学生生活においても、私を探求へ駆り立てる原動力になると思います。

また、私は音楽部と新聞部に所属してました。部活動の経験もさることながら、親切丁寧に指導してくれた先輩方、支えてくれた後輩達、そして三年間苦楽を共にした仲間も卒業後も信頼できる特別な存在となりました。勉強にやる気の出ない日も、部活の勉強だけに学校に来た、友達から刺激を得ることもありました。部活は高校生活の支えでした。

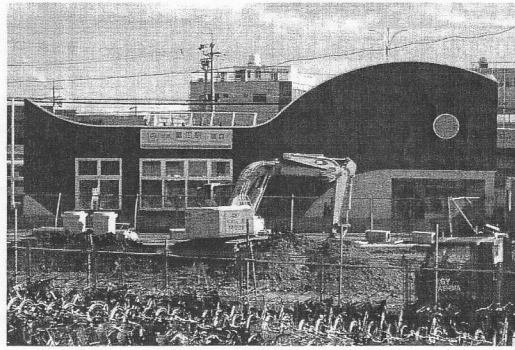
なにより三年間の中で印象深いのは三年生で迎えた『四高祭』です。

ステージ発表に向けて、スケジュールの合わない夏休み中も朝夕時間を見つけてはクタクタになるまで練習・準備に邁進しました。誰もが熱く真剣になり、文字通りクラス一丸となつて取り組んだ思い出は、ずっと忘れることのない人生の糧となつたと思います。

友達・先生・家族をはじめ、本当に多くの人に支えられた幸せな三年間でした。卒業後も四日市高校で学んだことを誇りに、頑張っていきたいと思えます。

学園だより

近鉄・三岐富田駅完成、 西口広場完成間近

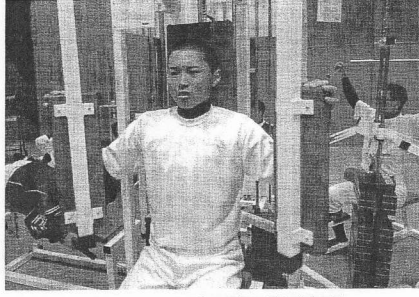


工事が進む富田駅西口広場

昨年11月いっばいで駅舎が完成しました。この駅舎は富田が鳥出神社の鯨船行事の町であることにちなんで鯨の形をしたユニークなものとなっています。この駅舎に面して駅前広場の整備が、20年度内の完成を目指して急ピッチで進められています。この広場から直接構内に入る通用門が既に設置され、広場の完成を待つばかりとなっています。また、便利さだけでなく、生徒の安全を守るという見地から、防犯カメラを設置いたしました。

トレーニング器機

大いに充実!



トレーニングに励む野球部員

平成19年12月にトレーニング場が完成したのですが、県からの予算は多くなく、十分なトレーニング器機を備えることができず、ガランとした感じでした。が、同窓会のご理解を得て、創立110周年記念事業の一環として総額約600万円に及ぶ寄付をいただき、たくさんの器機を揃えることができ、充実したトレーニング場にしていだきました。在校生が同窓会の意図に添えて、大いにこの施設を活用し、文武両道の伝統を守っていくことを願っています。

会館だより

◎20年度、理事会の席上「中国・四日市大地震被災者へ何か支援できないか」と提案があり、その場で募金を行い、2万5000円を救護金として、毎日新聞社、社会事業団に寄託いたしました。

◎当館メモリアル・ギャラリーに保管されている昭和30年度、第37回甲子園大会優勝時の高橋正勝投手愛用のグラブと優勝決定日発行の朝日、毎日両新聞社発行の号外が第90回大会開催中、甲子園阪神資料館にて展示されました。

(係・市岡)

編集後記

私たちの学年は昨年同窓会を開きました。それが年を重ね、久しぶりの再会に最初はぎこちなさが残っていましたが、話し出せば昔のまんま。途切れていた時間を、すぐに埋めてしまうことができました。

それどころか、当時話したことも無かった人と盛り上がりたり。中でも一番の収穫は、新しい縁ができたこと。きっとあちらこちらでアドレス交換が行われていたのでしょう。

母校を懐かしく感じられましたらぜひ同窓会館に足をお運びください。展示物をご覧になって、当時の様子に思いを馳せてみませんか? 会員の皆様からのご連絡をお待ちしております。

(小林 典子)

